

死んでる村に  
とげ／＼しい  
朝の閑古鳥。

お釋迦さまを  
よび出すのも  
うるさく。

獨り惱む机の上に

人の噂を

おりくる

食つて生きてる

蚊の一羽。

こいつら。

日蓮を

佛前に行き

また訪ねるのも

ケラが鳴いてる

憶劫。

おれを知つてる？

◆身延山に題す

渡邊正教

御神棲む身延の山に月冴えて

隈なく照らす末つ世の闇

梵音のひびきをこもる水の音

古しのぶ鷺の山影

法の山仰げば高く白妙に

聖の御跡涙して見る

法の山妙なる花の蓮華に

露の恵の御佛ぞ棲む

◆小湊 田川 惠 良

あかねさす小湊の寺うつくしく

日の照る下に波風もなし

蓮華の白きをめでつ秋深き

この小湊の浦曲に咲きぬ

久方の天の海原立渡る

天子おろがむ貫名父母

靄こむる小湊寺の此の朝け

今禮拜の鐘さえ渡る

◆暑中の折々 小島 一 誠

早る畑に草取る人を見る度に

己が暑さを未だしと思ふ

◆夏期講習の余艶